

1. 推進事業

事業費（要望額） 1,471,800円（うち交付金1,471,800円）		都県名		岩手県			
		事業実施年度		令和2年度			
現状と課題（※計画地区等における現状を踏まえて、課題を数値等も交えて具体的に記述すること。）							
<p>東日本大震災津波に伴う原発事故により、岩手県内では、放射性物質の影響を受け汚染された牧草（以下「汚染牧草」という。）が20,499t発生し、1,464t保管されているが、そのうち、遠野市において、1,170tが保管されている。</p> <p>遠野市では、汚染牧草の焼却について焼却処理施設と協議をしていたところであるが、今般焼却処理施設から、放射線量に応じた計画的な処理が求められたことから、保管汚染牧草の放射性セシウム濃度を把握する必要がある。</p>							
課題を解決するため対応方針（※上記の課題に対応させて記述すること。）							
<p>作業期間短縮と経費低減を図るため、スペクトルサーベイメーター機を用いた簡易測定法により汚染牧草の濃度測定と区分作業を行う。</p> <p>そのため、令和2年度は簡易測定法を行うための準備として、簡易測定値とゲルマニウム半導体検出器を用いた精密検査値の相関検討を行う。（汚染牧草ロール50個を抽出検査し、両検査値の検量線を作成）</p>							
都県における目標関係							
取組名	成果目標	事業実施後の状況				成果目標の具体的な実績	備考
		計画時	実施後	目標	達成率		
汚染牧草・牛ふん堆肥等処理の推進	保管している汚染牧草の放射性セシウム濃度を測定することにより、適正な保管及び処理を行い、持続的な生産活動に資する。	震災後に発生した汚染牧草のうち、処理が必要な保管牧草 4,626個 (1,169.84 t)	検量線の作成により、保管汚染牧草の簡易測定及び区分作業が完了。	汚染牧草の放射性セシウム濃度を簡易測定するための検量線を作成する。	100%	保管している汚染牧草のうち、ロール50個分の抽出検査を実施し、両検査値の検量線を作成した。	
事業実施地区数		総合所見					
1	検量線作成により汚染牧草の検査体制を確立し、測定作業及び区分作業が完了したことから、今後、適正な処分が確実に行われるよう継続的に支援していく。						

(注) 1 別紙様式1号に準じて作成すること。

2 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都県全体の総合所見を記入すること。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後（目標年度）		目標（令和3年度）		事業費（円）	負担区分（円）				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果（所見）
		被災状況	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容（計画）		交付金	都県費	市町村費	その他			
汚染牧草・牛ふん堆肥等処理の推進	遠野市	震災後、放射能汚染により利用できなくなった牧草が発生したが、平成27年10月からゴミ処理が広域化され、市では焼却処分ができなくなった。 牧草ロール 4,626個 重量 1,169.84t	50ロール	一時保管されている汚染牧草のうち、50ロールの放射性セシウム濃度を再測定し、現状値を把握するとともに、簡易測定するための相関を明らかにし、令和3年度以降に再測定を行って焼却処理の是非を検討した。	50ロール	一時保管されている汚染牧草のうち、50ロールの放射性セシウム濃度を再測定し、現状値を把握するとともに、簡易測定するための相関を明らかにし、令和3年度以降に再測定を行って焼却処理の是非を検討する。	1,471,800	1,471,800	0	0	0	100%	計画通り50ロールの再測定を実施し、令和3年度以降の焼却処理の是非を検討することができた。	計画どおりに放射性セシウム濃度を測定し、焼却処理の是非が検討されるなど、目標を達成している。 今後は、汚染された牧草の適正な処分が確実に行われるよう継続的な支援及び指導を行っていく必要がある。
—	—			—		—						—	—	—

- (注) 1 別紙様式1号の別添1に準じて作成すること。  
 2 「都県による点検評価結果（所見）」には、都県としての事業実施主体ごとの目標達成状況に関する評価を記載するとともに、目標未達成の場合には改善措置の指導の必要の有無を含めた今後の改善指導方策を記載する。